

令和6年度 シラバス

教科名	国語	科目名	論理国語	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	論理国語 大修館		
科目目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
履修上の注意点	授業：論理的な文章を読解することで実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、国語に関する知識・技能の定着を目指す。また、自己の考えたことを作文等に表現することで論理的に思考・判断し表現する力の発達を目指す。 提出物・討議等：主体的に学びに向かう態度の育成を目指す。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題			○	
	ノート提出			○	
	課題考査	○	○		
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	【第Ⅰ部】 1 世界・言葉・私 2 共同体のいま 3 科学の可能性 4 日本語の多様性 5 思考の枠組み	世界を広げる「批評」の言葉 家族化するペット 自己をモデル化する知能 敬語への自覚、他者への自覚 スキーマと記憶	26 (4) (5) (6) (5) (6)	筆者の主張をとらえる。 ・これからの時代における「書く」「読む」力について、自分の考えをもつ。 ・社会構造の変化が、思考・感情に影響を与えることについて考えを深める。 ・科学技術の進歩と人間の本質について、考えを深める。 ・敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。 ・記憶や学習におけるスキーマの働きを理解し、ものの見方を広げる。	知：定期考査 課題考査 思：定期考査 課題考査 主：提出物
2	【第Ⅰ部】 6 芸術と文化 7 科学の可能性 8 思考の枠組み 9 社会の原点 聞く 書く	余白の美学 人工知能の可能性と罪 絵を見る技術 社会的実在としての言語・法・貨幣 小論文	32 (6) (6) (7) (6) (7)	筆者の発想のしかたや論の展開の特徴を読み取る。 ・「余白」についての筆者の主張をふまえて、「美」について考える。 ・論の展開のしかたや、具体的なエピソードの意図を理解する。 ・絵を見る方法を的確に読み取り、ものの見方を広げる。 ・言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取り、社会に対する認識を深める。 ・題材の文章について、自分の意見を書く。	知：定期考査 課題考査 思：定期考査 課題考査 主：提出物
3	10 社会の原点	分かち合う社会 心に「海」を持って	12 (7) (5)	・食べ物を分かち合う人類特有の習慣の持つ意味について、論理の展開を的確にとらえる。 ・筆者の主張をふまえ、「心に海を持つ」ことの意味について、現代社会や自分の体験に引き付けて考える。	知：定期考査 思：定期考査 提出課題 主：提出物

令和6年度 シラバス

教科名	国語	科目名	古典探究	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	精選古典探究 古文編・漢文編 東京書籍		
科目目標	「知識及び技能」 ・生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深める。 「思考力、判断力、表現力等」 ・論理的に考える力や、共感・想像力を伸ばし、古典を通して伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を育てる。 「学びにむかう力、人間性」 ・古典について関心を深め、作品や文章を自分自身の経験に結び付け、考えを深める。				
履修上の注意点	・精選古典単語300PLUSの持参 ・『体系古典文法』の持参				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題			○	
	小テスト	○			
	課題考査	○	○		
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	説話 1 歌物語 随筆 1 日記 1	『宇治拾遺物語』 -小野篁、広才のこと- 『伊勢物語』 - 初冠 - 『枕草子』 - すさまじきもの - - 中納言参り給ひて - 『更級日記』 -門出 -	2 6 (4) (6) (5) (5) (6)	- 古文に慣れるとともに、説話の特徴を知り、話の展開や面白さを学ぶ。 - 敬語について学ぶ。 - 作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解するとともに、和歌の表現技法などを学ぶ。 - 現代でも有名な『枕草子』を学び先人のものの見方や感じ方を知るとともに、随筆の面白さを学ぶ。 - 日記というジャンルに触れ、作者の考え方や感じ方を学ぶ。 - 当時の行事やしきたり、出来事を知り、句法について学ぶ。 - 女流作家について学ぶ。	知：課題考查 定期考查 思：課題考查 定期考查 主：提出物
2	随筆 2 小話 史記 作り物 語 1	『徒然草』 - 世に従はん人は - 『十八史略』 -先従隗始 - 『韓非子』 -不死之薬 - 『史記』 -四面楚歌- 『源氏物語』 -光源氏の誕生-	3 2 (6) (6) (6) (5) (9)	- 作者の主張を論理展開的に留意して理解し、助動詞について学ぶ。 - 小話の展開の面白さを味わいながら、漢文の基礎知識を学ぶ。 - 漢文の文章の構成や句法、表現の特色などを学び、ものの見方や感じ方、作者の考え方を理解する。 『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考え、人間のあり方について理解する。 - 故事成語の成り立ちを理解し、考えを深める。 - 現代でも有名な『源氏物語』に触れ、敬語を学ぶとともに、作り物語の面白さを学ぶ。	知：課題考查 定期考查 思：課題考查 定期考查 主：提出物
3	作り物 語 1 近世小 説 1	『源氏物語』 -若紫- 『世間胸算用』 -小判は寝姿の夢-	1 2 (7) (5)	- 文章の内容を的確に理解し、登場人物の心情や行動を確認する。 - 敬語の理解を深めるとともに、主要な登場人物の人間関係について理解する。 『源氏物語』を通して、文法、敬語、先人のものの見方や考え方、生活環境などを学ぶ。 - 近世独特の文章表現を読み味わうとともに、これまでの中古の作品との比較を行う。	知：課題考查 定期考查 思：課題考查 定期考查 主：提出物

令和6年度 シラバス

教科名	国語	科目名	文学国語	履修学年	第2学年 (文Ⅰ・文Ⅱ・子どもみらい)
単位数	2	使用教材	教科書『文学国語』数研出版 副読本『新訂国語図説 六訂版』京都書房		
科目目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
履修上の注意点	○提出物は期日を守って、必ず提出するようにすること。 ○必要に応じて予習をしたり、発展課題・言語活動に取り組んだりするなどして、受身にならず積極的に学習してほしい。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	課題考査	○	○		
	提出課題			○	
	小テスト	○			
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	文学の扉	中島敦「山月記」	8	○内容や構成、場面の設定の仕方、表現上の特色をとらえ、主題への考察を深める。	〈知識・技能〉 定期考査 課題考査 小テスト 〈思考・判断・表現〉 定期考査 課題考査 〈主体的に学習に取り組む態度〉 提出課題
	平成の 小説	角田光代「鍋セット」 原田マハ「無用の人」	5 4	○主人公の生き方や心情を整理し、題名がもつ象徴性について考察する。	
	昭和後期 の小説	井上ひさし「ナイン」 阿部昭「三月の風」	4 4	○語り手の視点や人物像をとらえるとともに、時代背景をふまえて人間、社会に対するものの見方、考え方を深める。	
2	昭和初期 の小説	井伏鱒二「山椒魚」 太宰治「水仙」	5 5	○内容や構成、場面の設定の仕方、主人公の心情などをとらえるとともに、時代背景や関連資料もふまえて、作品の解釈を深めていく。	〈知識・技能〉 定期考査 課題考査 小テスト 〈思考・判断・表現〉 定期考査 課題考査 〈主体的に学習に取り組む態度〉 提出課題
	大正の 小説	夏目漱石「こころ」	8	○内容や構成、場面の設定の仕方、主人公の心情などをとらえるとともに、時代背景や関連資料もふまえて、作品の解釈を深めていく。	
	詩歌	詩 島崎藤村「小諸なる古城のほとり」 宮沢賢治「永訣の朝」 石垣りん「表札」 吉原幸子「発車」	1 1 1 1	○文語詩の表現の特色を理解する。 ○他の詩も参考に、作者の心情をとらえる。 ○作者の経歴や時代背景を踏まえて作品を解釈する。 ○一語一語がもつ象徴性を理解する。	
		短歌 俳句	4 4	○短歌の表現を理解し、感動の中心をとらえる。 ○俳句の表現を理解し、感動の中心をとらえる。	
3	文学的文 章の創作	湊かなえ「物語のおわり」	4	○語り手の視点や場面の設定の仕方などをとらえ、小説の結末を考え、文章にまとめる。	〈知識・技能〉 定期考査 課題考査 小テスト 〈思考・判断・表現〉 定期考査 課題考査 〈主体的に学習に取り組む態度〉 提出課題
	古典と 現代語訳	『源氏物語』訳 (与謝野晶子、谷崎潤一郎、角田光代)	3	○古典の本文と三者の現代語訳を比較し、表現の多様性について理解する。	
	文学評論	坂口安吾「文学のふるさと」 安藤宏「演技する『私』」	4 4	○本文で援用されている文学作品・論文が、筆者の主張とどう結びつくのかを的確にとらえ、文学の特質について理解する。	

令和6年度 シラバス

教科名		地理歴史	科目名	地理総合	履修学年	第2学年
単位数		2単位	使用教材	教科書 帝国書院「高等学校新地理総合」 二宮書店「詳解現代地図最新版」 副教材 帝国書院「新詳地理資料 COMPLETE 2024」 帝国書院「高等学校 新地理総合ノート」		
科目目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。				
履修上の注意点		①学習の基本は授業である。主体的に取り組むこと。 ②授業に必要な教科書・資料集・ノート類を忘れず持参すること。 ③課題やノート・レポート等の提出を怠らないこと。				
評価方法	学習活動		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査		○	○		
	ワークシート・ノート			○	○	
	課題・小テスト		○		○	
	発表			○	○	
	各観点の割合		40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
一学期	第1部 地図でとらえる現代世界	第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	1 3 1 3	○ 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ○ 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ○ 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。	(知識・技能) 定期考査・小テスト 課題 (思考・判断・表現) 定期考査 ノート・ワークシート (主体的に学習に取り組む態度) ワークシート・ノート 課題・発表
	第2部 国際理解と国際協力	第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題	5 7 4 4 6 1 3 4 4 3 4	○ 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ○ 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○ 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ○ 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ○ 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○ 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	(知識・技能) 定期考査・小テスト 課題 (思考・判断・表現) 定期考査 ノート・ワークシート (主体的に学習に取り組む態度) ワークシート・ノート 課題・発表
二学期					

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
三 学 期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	第1章 自然環境と防災 1 節 日本の自然環境 2 節 地震・津波と防災 3 節 火山災害と防災 4 節 気象災害と防災 5 節 自然災害への備え	1 3 3 3 3	○ 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ○ 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○ 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	(知識・技能) 定期考査・小テスト 課題 (思考・判断・表現) 定期考査 ノート・ワークシート (主体的に学習に取り組む態度) ノート・ワークシート 課題・発表
		第2章 生活圏の調査と地域の展望 1 節 生活圏の調査と地域の展望	4	○ 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ○ 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ○ 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	

令和6年度 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	履修学年	第2学年 (3年次継続履修)
単位数	3単位	使用教材	教科書 山川出版社「世界史探究」 副教材 帝国書院「最新世界史図説タペストリー」		
科目目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
履修上の注意点	①学習の基本は授業である。主体的に取り組むこと。 ②授業に必要な教科書・資料集・ノート類を忘れず持参すること。 ③復習やノート・課題等の提出を怠らないこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査・課題考査	○	○		
	ワークシート・ノート		○	○	
	課題（小テスト含む）			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
一学期	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成	世界史へのまなざし①	1	○「世界史探究」学習への導入とし、人類の誕生を地球46億年の歴史の中に位置づけて考える。	
		第1章 文明の成立と古代文明の特質 1 文明の誕生	10	1 文明誕生の基礎について、主な古代文明の立地について考察し、文明誕生の必要条件を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		2 古代オリエント文明とその周辺		2 古代オリエントの風土と、成立した文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に理解する。	
		3 南アジアの古代文明		3 南アジアの地理的環境、アーリヤ人の進入がもたらした変化について多面的・多角的に理解する。	
二学期	第Ⅱ部 諸地域の歴史的特質の形成	4 中国の古代文明		4 中国の古代文明が東アジアに及ぼした影響を多面的・多角的に理解する。	
		5 南北アメリカ文明		5 北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。	
		第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 1 中央ユーラシア	9	1 オアシス民と遊牧民の関係を理解し、遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		2 秦・漢帝国		2 中国の統一国家出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に理解する。	
		3 中国の動乱と変容		3 魏晉南北朝の動乱を中心に、中国の情勢が朝鮮や日本に与えた影響について理解する。	
		4 東アジア文化圏の形成		4 隋唐帝国の歴史を中心に、東アジア文化圏の形成について多面的・多角的に理解する。	
		第3章 南アジア世界と東南アジア世界 1 仏教の成立と南アジアの統一国家	8	1 マウリヤ朝のもとでの仏教の発展とクシャーナ朝と周辺諸国との関係を多面的・多角的に理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		2 インドの古典文化と ヒンドゥー教の定着		2 グプタ朝における宗教や文化の展開を理解し、ヒンドゥー教が南アジア社会に根づいた背景を考える。	
		3 東南アジア世界の形成と展開		3 東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に理解する。	
		第4章 西アジアと地中海周辺 の国家形成	10	1 アケメネス朝・パルティア・ササン朝の繁栄について多面的・多角的に理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		1 イラン諸国家の興亡とイラン文明		2 ①ポリスの特徴や人々の生活について、オリエント世界と比較する。②民主政発達経緯及び現代の民主主義との相違点を理解する。③ギリシア文明がヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に理解する。	
		2 ギリシア人の都市国家		3 ①ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較する。②ローマ共和政とローマ帝国の政治的・文化的意義を多面的・多角的に理解する。	
		3 ローマと地中海支配		4 キリスト教の成立とローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に理解する。	
		4 キリスト教の成立と発展			
		第5章 イスラーム教の成立と 西ヨーロッパ世界の形成	9	1 ①アラブ＝ムスリム軍の大征服の展開、ウマイヤ朝とアッバース朝の統治の特徴を理解する。②イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を理解する。	知：課題考査・定期考査 思：課題考査・定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		1 アラブの大征服と イスラーム政権の成立		2 ①ゲルマン人・ノルマン人の移動がヨーロッパ世界において果たした歴史的役割について理解する。②カールの戴冠が世界史において持つ意義について理解する。③封建社会の仕組みについて理解する。	
		2 ヨーロッパ世界の形成			
		第6章 イスラーム教の伝播と 西アジアの動向	7	1 イスラーム化が中央アジアにもたらした変化、南・東南アジアやアフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因について多面的・多角的に理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		1 イスラーム教の諸地域への伝播		2 ①トルコ人・十字軍・モンゴルの進出やマムルーク朝が西アジアにもたらした影響について多面的・多角的に理解する。②イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解する。	
		2 西アジアの動向			
		第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 1 西ヨーロッパの封建社会 とその展開	12	1 ①中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つに至った背景を理解する。②十字軍の遠征が社会に与えた影響を多面的・多角的に理解する。③商業・都市の発展について理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	2 東ヨーロッパ世界の展開	8	2 ①ビザンツ帝国の衰退の要因について理解し、ビザンツ文化が果たした世界史的意義を考える。②スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。	知：定期考査 思：ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		3 西ヨーロッパ世界の変容		3 ①封建社会解体の背景を多面的・多角的に理解する。②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解し、各国王権の拡大の関係を考える。	
		4 西ヨーロッパの中世文化	9	4 ①中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。②大学の成立過程を理解する。③美術や文学と、その時代の社会との関係を多面的・多角的に理解する。	知：定期考査 思：ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第8章 東アジア世界の展開 とモンゴル帝国		1 ①宋代の対外関係の特徴を多面的・多角的に理解する。②宋代における政治・社会・経済の発展の様子を理解する。③宋代の文化の特徴を理解する。	
		1 アジア諸地域の自立化と宋	8	2 ①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に理解する。②モンゴル帝国の支配が東アジアに及ぼした影響を理解する。③モンゴル帝国時代の東西交流について理解する。④モンゴル帝国崩壊の要因を理解する。⑤ティムール朝の盛衰について理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		2 モンゴルの大帝国		1 ①明朝初期の国内統治の特徴、明朝との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に理解する。②明朝後期の中国の社会・経済・文化と世界商業の活発化との関係を考える。③16世紀の東南アジアで台頭した新興勢力の共通点を理解する。	
		第9章 大交易・大交流の時代	8	2 ①ヨーロッパの人々が大海に出た動機や背景を多面的・多角的に理解する。②ヨーロッパ人の進出がアジアや中南米にもたらした影響や変化を理解する。③16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		1 アジア交易世界の興隆		1 ①オスマン帝国の形成・勢力拡大の経緯を理解する。②オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を理解する。③サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に理解する。	
		2 ヨーロッパ世界の海洋進出と アメリカ大陸の変容	14	2 ①ムガル帝国の盛衰について理解する。②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第10章 アジアの諸帝国の繁栄		3 ①清朝の統治について理解する。②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較しながら多面的・多角的に理解する。	
		1 オスマン帝国サファヴィー朝		1 ①ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に理解する。②多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。	知：課題考査・定期考査 思：課題考査・定期考査 ワークシート・ノート 主：課題（小テスト含む）
		2 ムガル帝国の興隆		2 ①ルターやカルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を考える。②カトリック改革が持つ世界史的意義を多面的・多角的に理解する。	
		3 清代の中国と隣接諸地域		3 ①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に理解する。②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。	
		第11章 近世ヨーロッパ世界の動向		4 17世紀におけるオランダ・イギリス・フランスの国情について多面的・多角的に理解する。	
		1 ルネサンス		5 主権国家体制において、ポーランド・スウェーデン・ロシア・プロイセン・オーストリアの国情について理解する。	
		2 宗教改革		6 科学革命の成果について多面的・多角的に理解する。	
		3 主権国家体制の成立			
		4 オランダ・イギリス・ フランスの台頭			
		5 北欧・東欧の動向			
		6 科学革命と啓蒙思想			
三学期					

令和6年度 シラバス

教科名		地歴公民	科目名	日本史探究	履修学年	第2学年
単位数		3単位	使用教材	教科書 山川出版社「日本史探究 詳説日本史」 副教材 第一学習社「最新 日本史図表」		
科目目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史との関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （２）我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 （３）我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
履修上の注意点		・学習の基本は授業である。集中して取り組むこと。 ・予習・復習や課題等の提出を怠らない。				
評価方法	学習活動		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査		○	○	○(課題考査)	
	ワークシート			○	○	
	課題（小テスト含む）				○	
	各観点の割合		40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 日本文化 のあけぼ の	1 文化のはじまり	5	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 農耕社会の成立	5	大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	第2章 古墳とヤ マト政権	1 古墳文化の展開	5	地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容から捉える。ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 飛鳥の朝廷	5	ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	第3章 律令国家 の形成	1 律令国家への道	5	律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。律令にもとづく国内統治体制について理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 平城京の時代	5	律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		3 律令国家の文化	3	律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		4 律令国家の変容	5	平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
2	第4章 貴族政治 の展開	1 摂関政治	5	藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことを捉える。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 国風文化	3	大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）

2	第4章 貴族政治 の展開	3 地方政治の展開と武士	5	律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	第5章 院政と武 士の躍進	1 院政の始まり	3	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 院政と平氏政権	5	政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	第6章 武家政権 の成立	1 鎌倉幕府の成立	5	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 武士の社会	5	承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		3 モンゴル襲来と幕府の衰退	5	モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意味を考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		4 鎌倉文化	3	庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	3 第7章 武家社会 の成長	1 室町幕府の成立	5	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 幕府の衰退と庶民の台頭	4	庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		3 室町文化	3	武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）

3	第7章 武家社会 の成長	4 戦国大名の登場	4	応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	第8章 近世の幕 開け	1 織豊政権	4	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		2 桃山文化	3	新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	第9章 幕藩体制 の成立と 展開	1 幕藩体制の成立	5	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断でないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	知：定期考査 思：定期考査・ワークシート 主：課題（小テスト含む）

令和 6 年度 シラバス

教科名		公 民	科目名	公 共	履修学年	第 2 学年
単位数		2 単位	使用教材	教科書 帝国書院「高等学校 公共」 副教材 帝国書院「高等学校 公共ノート」 「ライブ 2024 公共、世の中の動きに強くなる」		
科目目標		人間と社会のあり方についての見方・考え方を養い、課題を追究し解決する活動を通して、広い視野に立ち国際社会で主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。 (1) 現代社会の課題を適切に捉える力を養う。課題を考察・選択・判断するための概念や理論を理解し、情報を効果的に選択しまとめる技能を身に付ける。 (2) 現代社会の課題の解決に向けて、選択・判断する力を養い、公共的な空間における基本的原理を活用し、多面的に考察し公正に判断できる力を養い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) より良い社会の実現を視野に、現代社会の課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としてのあり方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。				
履修上の注意点		①学習の基本は授業である。学習に主体的に取り組むこと。 ②授業に必要な教科書・資料集・ノート類を忘れず持参すること。 ③課題やノート・レポート等の提出すること。				
評価方法	学習活動		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査		○	○		
	ワークシート・ノート			○	○	
	課題・レポート (小テスト含む)				○	
	班別協議・発表		○	○	○	
	各観点の割合		4 0 %	3 0 %	3 0 %	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時数	指導内容	評価項目
一学期	第1部 私たちが つくる社会	第1章 社会の中の私たち 第1節 青年期と社会参画	6	○ 青年期における自己と社会のあり方の理解に基づき、社会に参画する自立した主体としてのあり方生き方について自分の意見を表現することを通じて社会形成とそれに結びつく、自らのキャリア形成について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第2節 宗教・思想・伝統文化と社会	3	○ 私たちが生きる社会を形成する伝統や文化、宗教、古来の日本人の考え方などへの理解に基づき、相互の立場を理解しあう社会的な存在であることについて、自分の意見を表現することを通じて自らの価値観、それらを形成する背景や要因について理解させる。	
		第2章 思想から学べきもの 第1節 倫理的な見方・考え方	5	○ 先哲の考え方の理解に基づき、公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、義務を重視する考え方などについて理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第3章 私たちの社会の基本原則 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方	9	○ 公共的な基本原則としての日本国憲法の考え方の理解に基づき、個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定等の大切さ、公共的な場面に生じる課題を探究することの大切さを理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
二学期	第2部 社会のしくみ と諸課題	第1章 私たちと法 第1節 法の意義と司法参加	7	○ 法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、自らの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を高めさせる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第2章 私たちと政治 第1節 民主社会と政治参加	7	○ さまざまな意見や利害を調整する政治の意義や統治機構の仕組みの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取組みについて、自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第2節 国際政治の動向と平和の追求	8	○ 国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、領土問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、自らの意見や主張を表現することを通じて理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第3章 私たちと経済 第1節 市場経済のしくみ	8	○ 市場メカニズムに対する正確な理解に基づき、公正かつ自由な経済活動が行われる社会を構成するための取組みについて、自分の意見を表現することを通じて、市場経済の機能と限界、金融の動き、財政及び租税の役割について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
三学期		第2節 豊かな社会の実現	7	○ 変化する産業構造と労働のあり方、社会保障の意義と課題に対する正確な理解に基づき、国民福祉の向上に向けた取組みについて、自分の意見を表現することを通じて、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の役割といった諸問題について理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
		第3節 国際経済の動向と格差の是正	6	○ グローバル化の進展により経済活動が世界的な規模で行われていることに対する正確な理解に基づき、貧困や格差のない国際社会の形成に向けた取組みについて自分の意見を表現することを通じて理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 ワーク・ノート 主：課題（小テスト含む）
	第3部 持続可能な社会 の実現に向けて	課題探究学習の手引き	4	○ 第1部・第2部の学習を振り返りながら、各領域を横断する課題を探究する単元であり、「公共」のまとめとして、これまでの学習の成果を活用することができるよう時間配分を行う。	思：班別協議・発表 主：レポート(成果物)

令和6年度 シラバス

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修学年	2（文Ⅱ・子）
単位数	4	使用教材	高等学校 数学Ⅱ（数研出版） REPEAT 数学Ⅱ（数研出版）		
科目目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 ① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ② 適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
履修上の注意点	各授業の復習課題（週末課題）を必ずやってから次の授業に望むこと。 授業内で実施する小テストに意欲的に取り組むこと。 提出物は期限を守り提出すること。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題		○	○	
	Web課題			○	
	小テスト	○	○	○	
	各観点の割合	40％	30％	30％	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 式と証明	第1節 式と計算	10	3次の乗法公式、二項定理や因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができるようにする。また、整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算をすることができるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
		第2節 等式・不等式の証明	8	等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質、絶対値の性質、相加平均と相乗平均の関係などを用いて証明することができるようにする。	
	第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解	10	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができるようにする。また、2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解し、それらを活用できるようにする。	
		第2節 高次方程式	9	因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求めることができるようにする。	
	第3章 図形と方程式	第1節 点と直線	11	座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができるようにする。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用することができるようにする。	
		第2節 円	10	座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用することができるようにする。	
2	第4章 三角関数	第1節 三角関数	13	角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方、扇形の面積の求め方などについて理解する。また、三角関数について、相互関係などの基本的な性質や、周期性をもつなどのグラフの特徴について理解する。さらに、三角関数を用いた方程式・不等式の解が求めることができるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
		第2節 加法定理	11	三角関数の加法定理を理解し、それを用いて2倍角の公式を導くことができるようにする。さらに、三角関数の合成について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする	
	第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数	8	指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができるようにする。	
		第2節 対数関数	10	対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができるようにする。また、対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することができるようにする。	

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
	第6章 微分法と 積分法	第1節 微分係数と導関数	9	微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができるようにする。	
3		第2節 関数の値の変化	10	導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくことができるようにする。また、グラフの概形を利用して、方程式の解や不等式の証明など、微分の考えを事象の考察に活用することができるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で習った内容を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況や課題からの小テストで、数学を活用する態度を評価する。
		第3節 積分法	12	不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができるようにする。また、定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができるようにする。	

令和6年度 シラバス

教科名	理科	科目名	化学基礎	履修学年	第2学年文Ⅱ 子どもみらい
単位数	2 単位	使用教材	教科書 数研出版 新編化学基礎 ワーク 数研出版 改訂版リード Light 化学基礎		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究する力を養う。				
履修上の注意点	・ 持参物：教科書、授業プリント、タブレット ・ 配布プリントは整理し管理すること。 ・ 実験をした内容と化学の基本原理・法則を関連づけて理解する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート （問題集）			○	
	実験レポート・ 探究活動		○	○	
	振り返り			○	
	小テスト	○			
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	物質の構成	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 混合物と純物質 2 物質のその成分 3 物質の三態と熱運動	計 26	- 物質の成り立ちと混合物と純物質の考え方があることおよびその分離操作、さらには状態変化と熱運動の概念を理解・習得し、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身につける。 - 身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離・精製する実験などで基本操作を身に付ける。	知：定期考査・小テスト 思：定期考査・実験レポート 主：ワークシート（問題集） 探究活動 振り返り
	原子の構造と元素の周期律	第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表			
	粒子の結合	第3章 粒子の結合 1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 共有結合の結晶 4 金属結合と金属	計 26	- 物質の構成粒子としての原子の構造について理解・習得し、具体的な原子の表現についても規則性があること等の基本的な知識を身につける。 - 化学結合についての概念を基に、その多様性と物質の性質について考察する。 - 原子量、分子量、式量およびアボガドロ数と物質量との関係について正確に理解・習得し、モル質量、1mol の気体の体積、溶液の濃度等について正しく表現できる基本的な知識を身につける。	
	物質質量	第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 1 原子量・分子量・式量 2 物質質量			
2	溶液の濃度 化学反応式	第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量	計 26	- 化学反応式の書き方について理解・習得し、その係数と物質質量、気体の体積等の関係について基本的な知識を身につける。 - 炭酸カルシウムと塩酸を反応させる実験や炭酸水素ナトリウムの熱分解の実験などを通し、化学反応式の係数の比と化学反応における物質量の比の関係を理解する。	知：定期考査・小テスト 思：定期考査・実験レポート 主：ワークシート（問題集） 探究活動 振り返り
	酸と塩基 中和反応 中和滴定	第2編 物質の変化 第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基 2 水の電離、水溶液の pH 3 中和反応と塩 4 中和滴定		- 酸と塩基の定義や分類について理解・習得し、具体的な酸や塩基の価数や強弱について基本的な知識を身につける。 - 水素イオン濃度と pH の関係、酸性・塩基性の定義について理解・習得する。 - 中和反応の量的関係について理解・習得し、塩の生成や中和滴定の実験を通じて具体的な器具や指示薬、滴定曲線についての基本的な知識を身につける。	
3	酸化と還元	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	計 18	- 酸化還元反応は反応に関与する原子やイオンの酸化数の増減により説明できることを理解する。 - 代表的な酸化剤および還元剤のはたらきについて理解する。 - 金属のイオン化傾向から、金属によって陽イオンのなりやすさが異なることを理解する。 - 代表的な実用電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解する。 - 酸化還元反応を利用した具体的事例を取り扱い、化学基礎で学んだ事柄が日常生活や科学技術と結びついていることを理解する。 - 代表的な酸化剤と還元剤の反応の実験などを通し、金属のイオン化傾向を比較する。	知：定期考査・小テスト 思：定期考査・実験レポート 主：ワークシート（問題集） 探究活動 振り返り
	金属のイオン化傾向と電池	一電池・金属の精錬			

令和6年度 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	現代高等保健・ステップアップ高校スポーツ 2023		
科目目標	① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正・協力・責任などの態度を身に付ける。 ② 自己やグループの能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫し、必要な技能や体力を高めるために運動の合理的な行い方を身に付ける。 ③ 選択した運動種目の技術やルールなどの理解を深める。 ④ 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計し実践していく方法を身に付ける。				
履修上の注意点	① 領域に応じた服装で受講する。 ② 学習ノートの提出を行う。 ③ 運動制限等がある者は別の課題を行い評価を受ける。見学する際は見学届けを記入し、提出する。 ④ 球技については、3回の選択で同一種目を選択することはできない。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	主体性			○	
	協調性			○	
	技能テスト	○			
	ルールテスト	○	○		
	実技ノート		○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	A 体づくり運動	・新体力テスト	6	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す。	知・技：新体力テスト得点
	H 体育理論	・集団行動 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展		・集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を学び、集団が安全かつ能率的に行動する。 ・「する、みる、支える、知る」といった生涯にわたる豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。	知・技：行動様式 ・協調性 思：安全性 主：主体性 実技ノート
	E 球技①	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型		・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
	F 武道	・柔道		・技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称、体力の高め方などを理解する。 ・基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。	
2	G ダンス	・現代的なリズムのダンス	18	・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方を理解する	
	から1種目選択				
2	E 球技②	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型	18	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
	から1種目選択				
2	E 球技③	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型	18	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
	から1種目選択				
3	C 陸上競技	・長距離走	10	・1000m～5000mを中心に取り組む。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート

令和6年度 シラバス

教科名	保健体育	科目名	2年 保健	履修学年	第2学年
単位数	1 単位	使用教材	大修館 現代高等保健体育・図説・プリント		
科目目標	①個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できる能力を育成する。 ②健康や安全の意義を理解するとともに、生涯を通じる健康や健康を支えるについて課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。 ③心身の安全や健康に関する課題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付ける。				
履修上の注意点	① 教科書を中心に副教材を使用して、授業を展開していく。 ② タブレットを活用して授業を展開していく。 講座に関係する時事問題などをプリントし、参考資料として活用する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート・ノート			○	
	実習課題・小テスト		○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	3 生涯を 通じる 健康	01 ライフステージと健康 02 思春期と健康 03 性意識と性行動の選択 04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶 06 結婚生活と健康	12	思春期における体の変化を学ぶ 性教育について考える 正しい避妊法を理解する 心身の発達と結婚生活の関係について学ぶ	各授業のワークシート 小テスト 中間 ノート提出 1 学期期末考査 期末 ノート提出
2	4 健康を 支える 環境づ くり	07 中高年期と健康 08 働くことと健康 09 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と 健康 03 環境と健康にかかわる 対策 04 ごみの処理と上下水道の 整備	14	働くことの意義と健康とのかかわりにつ いて考える 大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染 の発生のしくみについて理解する 環境汚染による健康被害を防ぐ方法につ いて考える	各授業のワークシート 小テスト 中間 ノート提出 環境汚染の調べ学習 レポート 2 学期期末考査 期末 ノート提出
3		05 食品の安全性 06 食品衛生にかかわる活動 07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用 09 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社 会的対策 11 健康に関する環境づくり と社会参加	9	食品の安全性と健康とのかかわりにつ いて理解する 医療保険のしくみについて理解する 医薬品の正しい使用法を学ぶ 健康の保持増進のための環境づくりにつ いて考える	各授業のワークシート 小テスト 3 学期期末考査 ノート提出

令和6年度 シラバス 英語コミュニケーションⅡ 文Ⅱ・子みらい

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅡ	履修学年	第2学年
単位数	4単位	使用教材	<u>教科書</u> BIG DIPPER English Communication Ⅱ（数研出版） <u>副教材</u> BIG DIPPER English CommunicationⅡベーシックノート（数研出版） 英単語ターゲット（1400）旺文社 基礎を固める 英語構文ノート90（数研出版）		
科目目標	英語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常的话题や社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 (2) 対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。また、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 (3) 事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができ、また、文章を書いて伝えることができる。				
履修上の 注意点	・予習を丁寧に行い、授業に取り組むこと。予習も評価の対象になります。 ・授業で学習した内容をしっかり復習し、既習事項の定着を行うこと。 ・team-teaching(ALT)での授業発表や授業内でのペアおよびグループ活動に積極的に取り組むこと。 。 ・提出物は期限を厳守し、指示通りに取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	パフォーマンステスト		○	○	
	中テスト(課題考査他)	○	○		
	小テスト等		○	○	
	課題(提出物)			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単 元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	Lesson1 Lesson2 Lesson3	Why don't You Come to School in Pajamas? Is Seeing Believing? Do you Get Enough Sleep?	計 52	● EC I で履修した受動態、不定詞、関係代名詞、関係副詞、時制、仮定法過去について理解を深める。 ● 音読やシャドーイングの練習からどのように新出単語を発音するかを理解し、派生語なども考え、語彙量を増やしていく。 ● 教科書の内容について、英問英答を中心にすばやく理解できるように学習していく。 ● 学習した内容を使い、自分の考えを発表することができるように学習していく。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：週末課題・小テスト等
2	Lesson4 Lesson5 Lesson6 Lesson7	Do you Want to speak English like a Native Speaker? Universal Design: Convenient for All Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer Learning from Nature	計 52	● EC I で履修した関係代名詞、関係副詞、分詞の活用、分詞構文、動名詞、不定詞について理解を深める。 ● 音読やシャドーイングの練習からどのように新出単語を発音するかを理解し、派生語なども考え、語彙量を増やしていく。 ● 教科書の内容について、英問英答を中心にすばやく理解できるように学習していく。 ● 学習した内容を使い、自分の考えを発表することができるように学習していく。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：週末課題・小テスト等
3	Lesson8 Lesson9 Lesson10	From Recycle to Upcycle Diversity at Japanese Companies Sand and Concrete: A Basis of Our Life	計 36	● EC I で履修した仮定法過去完了、時制（未来完了）、無生物主語について理解を深める。 ● 音読やシャドーイングの練習からどのように新出単語を発音するかを理解し、派生語なども考え、語彙量を増やしていく。 ● 教科書の内容について、英問英答を中心にすばやく理解できるように学習していく。 ● 学習した内容を使い、自分の考えを発表することができるように学習していく。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：週末課題・小テスト等

※ 年間を通じて「読むこと」の目標として、WPM60 をクリアできるように音読課題を課す。

教科名	外国語（英語）	科目名	論理表現Ⅱ	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	教科書 NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅱ（東京書籍） 副教材 NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅱ WORKBOOK（東京書籍） Listening laboratory（数研出版） Raise 3（Daichi Gakushusha） Scramble Basic（旺文社） 英語構文ノート90（数研出版）		
科目目標	話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの3つの領域を中心に、次のとおり、英語を用いた発信能力を育成することを目指す。 (1) 学習者(learner)として、情報や考え、気持ちを伝え合い、やり取りを通して必要な情報を得るために、文型や基本的な文法事項について、学習し運用することができる。 (2) 使用者(user)として、外国語としての英語を運用しようとする態度や学習習慣を身に付けて、自らの学習に反映することができる。				
履修上の注意	・ 予習を丁寧に行い、授業に取り組むこと。予習も評価の対象になります。 ・ 授業で学習した内容をしっかり復習し、既習事項の定着を行うこと。 ・ 授業内のペアおよびグループ活動に積極的に取り組むこと。 ・ 提出物は期限を厳守し、指示通りに取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	パフォーマンステスト		○		
	リスニングテスト等		○		
	課題提出等			○	
	小テスト等	○		○	
	課題考査	○		○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	学習内容	時間数	学習目標	文法項目	評価項目
1	Unit 1 Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	友達に報告する 日本での初登校 経験についてのスピーチ ファンレター イベントに誘う 図書館で資料さがし	計 26	訂正することができる。 心配することができる。 感謝することができる。 驚くことができる。 繰り返すことができる。 言い換えることができる。 注意を引くことができる。 同意を求めることができる。 望むことができる。 褒めることができる。 誘うことができる。 説明することができる。 聞き直すことができる。 依頼することができる。	1 年次で学習した基本的な文法事項を復習・確認する	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト・リスニングテスト等 主：課題提出・小テスト等
2	Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12	翻訳についてのスピーチ 通信販売で返品依頼 タクシーに乗る 友達とディスカッション 比較結果のプレゼンテーション 就きたい職業	計 26	要約することができる。 言い換えることができる。 困ったことを伝える・説明することができる。 控えめに依頼することができる。 依頼することができる。 提案することができる。 仮定することができる。 反対することができる。 報告することができる。 比較して説明することができる。 説明することができる。 理由を述べることができる。 仮定することができる。	1 年次で履修した基本的な文法事項を復習・確認する	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト・リスニングテスト等 主：課題提出・小テスト等
3	Unit 2 Lesson1 ～ Lesson 3 Lesson 4 ～ Lesson 5 Lesson 6 ～ Lesson 8	話すこと（やり取り） 話すこと（発表） 書くこと	計 18	1、2学期で学習した内容を使って英語で簡単な会話ができる。 1、2学期で学習したことを使って英語で簡単な発表ができる。 1、2学期で学習したことを使って基本的な英文を書くことができる。	1 年次で履修した基本的な文法事項を復習・確認する	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト・リスニングテスト等 主：課題提出・小テスト等

令和6年度 シラバス

教科名		家庭	科目名	フードデザイン	履修学年	第2学年
単位数		2単位	使用教材	教科書：「フードデザイン」（実教出版） 副教材：「フードデザイン 学習ノート」（実教出版）		
科目目標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
履修上の注意点		・ 調理実習等お昼休みの時間帯を使うことがあります。 ・ 実習にあたっては必ず決められたルールや指示に従って活動してください。				
評価方法	学習活動		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	確認テスト		○	○		
	学習ノート			○	○	
	課題・レポート			○	○	
	実習記録			○	○	
	実習準備・取組み				○	
	各観点の割合		40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	1.食生活と健康	①食事の意義と役割 ②食をとりまく現状	6 6	・食事の役割について理解する。 ・栄養摂取の変化と現状と自分の食生活の現状を知り、今後の食事の在り方について考える。 ・日本の食の課題について知り、自分が生活の中でできることは何か考える。 ・栄養素の種類とはたらきについて学ぶ。	学習ノート 作品（ポスター） 学習ノート 確認テスト
	2.栄養素のはたらきと食事計画	①栄養素のはたらき	12		
2		②ライフステージと栄養	4	・各ライフステージごとに異なる、必要な栄養素や栄養上の注意点などについて学ぶ。 ・外部講師による講義「成長期の栄養」を受けてさらに学びを深める。 ・食事摂取基準について学ぶ。 ・食事摂取基準と今の自分の食生活と比べて改善すべき点を見つけ、正しい食事計画を立てられるようにする。	学習ノート 講義レポート ワークシート 学習ノート 実習記録
		③食事摂取基準と食事計画	4		
		①食品の特徴と性質	10		
		②食品の生産と流通	3		
	3.食品の特徴・表示・安全	③食品の選択と表示	3	・食品の種類・質の多様化の背景と現状について学ばせ、食品を正しく選択できる力を身に付ける。 ・食品衛生について学び、食中毒を予防して安全に調理、食事ができるようにする。	学習ノート
		④食品の衛生と安全	4		
	4.調理の基本	①調理とおいしさ	4	・調理の目的やおいしさにかかわる要因について学ぶ。 ・基本的な調理操作を学ぶ。 ・調味の目的や、基本的な調味操作について学ぶ。 ・調理実習を行い、基本的な調理・調味について実践的に学ぶ。	学習ノート 実習記録 確認テスト
		②調理操作	4		
		③調味操作	4		
3	5.食育	①食育の意義と課題	3	・食育基本法の内容について理解する。 ・食育が生活とどのようにかかわっているか考える。 ・現在行われている食育について調べる。	学習ノート 確認テスト
		②食育推進活動例	3		

教科名	情報	科目名	情報Ⅱ	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	教科書 東京書籍「情報Ⅱ」		
科目目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的，創造的に活用し，情報社会に主体的に参画し，その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 多様なコミュニケーションの実現，情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的，創造的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，新たな価値の創造を目指し，情報社会に主体的に参画し，その発展に寄与する態度を養う。この科目のねらいは，具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して，問題の発見				
履修上の注意点	・プリント授業とコンピュータを利用した実習授業を行います。 実習授業の回に欠席すると、実習点がつきません。とにかく出席し、実習に取り組む				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○			
	ワークシート			○	
	実習課題		○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 情報社会	オリエンテーション 活 1 問題解決学習の進め方 [p.108] 活2 協働学習[p.110] 1 情報社会の進展と情報技術 [p.54] 実4 POSシステムを調べる[p. 8] 1 情報社会の進展と情報技術 [p.55] (や) 不正アクセス, 情報漏洩 などの具体的な事例を調べる	26 (6)	・情報Ⅱの学習目標とシラバスを理解する。 ・実習の際の学習方法を理解する。 ・協働学習における共有方法 (ICT の使い方) を確認する。 ・情報技術の発展と生活の変化を理解する。 ・情報技術が進歩し, 情報システムがさまざまな分野で活用されていることを理解する。 ・情報システムによる情報の流れを体験し, 理解する。 ・情報システムによる情報の流れを知り, 情報モラルや法整備の重要性を理解する。	知: 定期考査 思: 実習 主: ワークシート 振り返りシート
		2 コミュニケーションの多様化 [p.56] (や) コミュニケーションの特徴 の具体例を挙げる 実1 うわさの研究[p.2] 2 コミュニケーションの多様化 [p.57] (や) 情報デザインが効果的 に用いられている事例の調査	(6)	・コミュニケーション手段の分類や特徴を意識し, 考える。 ・状況に適したコミュニケーションの手段を考える。 ・うわさの研究を通してコミュニケーションの手法によってどのように情報が伝わるかを研究する。 ・情報の抽象化・可視化・構造化を理解する。 ・人に優しく効果的なコミュニケーションのためのデザインを学習する。 ・効果的な情報デザインとはどのようなものか理解する。	知: 定期考査 思: 実習 主: ワークシート 振り返りシート
	第2章 コンテ ンツ	4 メディアの特性と利用[p.64] 実 10 学校 PR プロジェクト (Web ページ作成)[p.22] (2 コミュニケーションの多様 化)	(4)	・メディアの特性について学習する。 ・広告による, メディアの特性を利用したメディアの利用を知る。 ・メディアミックスやクロスメディアの考え方を理解する。 ・学校 PR の目的と, コミュニケーションの特徴, メディアの特性から適切な学校 PR 方法を検討する。	知: 定期考査 思: 実習 主: ワークシート 振り返りシート
		5 コンテンツ制作[p.66] 実10 学校PRプロジェクト(We bページを作成する)[p.22]	(3)	・学校 PR プロジェクトに取り組むことで, アクセシビリティやユニバーサルデザインを考えた情報コンテンツの作成を学習する。 ・画像による表現, 音による表現, 動画による表現のメリットデメリットを考え, 情報の受け手を意識した学校 PR のコンテンツ制作をする。	知: 定期考査 思: 実習 主: ワークシート 振り返りシート
		6 コンテンツの発信[p.68] 実10 学校PRプロジェクト(We bページを相互評価する)[p.23]	(4)	・情報発信について, 情報の獲得の仕方による分類を学習する。 ・ソーシャルメディアによる情報発信について学習する。 ・広告による情報発信について, 特にペイドメディア, ネイティブアド, ターゲティング広告の存在を知る。	知: 定期考査 思: 実習 主: ワークシート 振り返りシート
		3 人間の知的活動への影響[p.58] 12 機械学習と人工知能[p.86] 実3 人工知能と仕事を考える [p.6]	(3)	・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・身近な情報システムや人工知能の影響などの問題について学習する。	知: 定期考査 思: 実習 主: ワークシート 振り返りシート

学 期	単 元	指 導 項 目	時 間 数	指 導 内 容	評 価 項 目
2 学 期	第3章 データサイエンス	7 社会にあふれるデータ[p.76]	24 (4)	- データの分類や特性を理解する。 - データベース管理システムの特徴を理解する。 - 構造化データと非構造化データを具体例から知る。 - コンバージョンの考え方を知り、活用する。	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート
		8 データベースの管理と操作[p.78] (や) p.79 の図 2 の現在貸出中の書籍の書名と著者名を調べてみよう 章末問題[p.91]	(4)	- 関係データベースについて学習する。 - 正規化を具体的にどのようなものか知る。 - 関係データベースの演算について学習する。	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート
		9 データの収集と整理[p.80] 実 15 データを整理しよう[p.34] 実22 テキストマイニングしてみよう[p.48]	(4)	- データの収集方法と収集されたデータの整理の仕方や注意点を理解する。 - データを実際に収集し、整理することでデータの収集と活用する方法を身につける。 - テキストマイニング実習を通して、整理したデータの解釈や分析の注意点を理解する。 - テキストマイニングをした結果、考察をまとめ、発表する。(または、レポートにまとめる。)	知：定期考査 思：実習 主：ワークシート 振り返りシート
		10 データの分析と分類[p.82] 実16 キーボードの配列を研究しよう[p.36]	(5)	- 相関関係と因果関係の違いを理解する。 - 回帰分析、説明変数、目的変数がどのようなものか理解する。 - データの分類手法のひとつとして、実習を通じてクラスタリングを学習する。 - クラスタリングを用いた分析結果、考察をレポートにまとめる。	知：定期考査 思：実習 主：ワークシート 振り返りシート
		実 18好きなものをマップにしよう[p.40]	(4)	- 分析したいデータを集め、分析できる形 csv ファイルにまとめる。 - R にデータを読み込み、主成分分析を行う。 - 主成分分析の結果をわかりやすく、視覚化する。	知：定期考査 思：実習 主：ワークシート 振り返りシート
		11 モデルの評価と検証[p.84] 実 14 ガチャは何回引けば当たるのか[p.32]	(3)	- 分析の結果できたモデルが適切かどうかを考える必要性を学習する。 - 過剰適合や多重共線性とその対策について学習する。 - する。 - ガチャのモデル化とシミュレーションを行う。 - プログラムやモデルの数式の一部を変化させ、より適切なモデルを検討したり、考察をしたりする。	知：定期考査 思：実習 主：ワークシート 振り返りシート

学 期	単 元	指 導 項 目	時 間 数	指 導 内 容	評 価 項 目
3 学 期	第4章 情報シ ステム	13 情報システム[p.92]	20 (3)	・どのような情報技術を活用し、身近な生活を支える情報システムが実現されているかを理解する。 ・仮想通貨や電子マネーなど、情報システムのサービスの利用が生活に与える効果と影響を考える。 ・情報システムの評価のための基本的な考え方を知る。 ・情報システムの信頼性の重要性を理解し、考え方を知る。	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート
		14 情報セキュリティ技術[p.94]	(4)	・情報セキュリティのための3原則を学ぶ。 ・情報セキュリティを高めるための技術を学習する。 ・暗号化の技術、特に共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の仕組み、違いを理解する。	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート
		15 情報システムの設計[p.96] 活 問題解決のツール④計画の進行を管理するツール[p.150] 実21 小さな情報システムを作ろう[p.46]	(7)	・情報システムの設計の流れを学習する。 ・プロジェクト・マネジメントとは何か、計画進行を管理するツールについて学習する。 ・情報システムを作成するためにチームを作り、プロジェクト管理を行い、システム開発をする。	知：定期考査 思：実習 主：ワークシート 振り返りシート
		16 情報システムのプログラム[p.100] 実23 掲示板を作ろう[p.50]	(6)	・プログラムの設計や目的に合わせてプログラミング言語を選択するために、言語プロセッサについて、その種類を学習する。 ・開発環境の存在や使い方を学習する。 ・掲示板の作成をチームでプロジェクトとして役割分担し、工夫してシステム開発を行う。 ・作成した掲示板の動作を確認する。	知：定期考査 思：実習 主：ワークシート 振り返りシート

令和6年度 シラバス

教科名	芸術	科目名	書道Ⅱ	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	教科書： 書道Ⅱ（東京書籍）		
科目目標	・ 書道Ⅰの学習を踏まえて、表現力、鑑賞能力、書写能力のさらなる向上を目指す。 ・ 書の理論や伝統に対する理解を深め、自らの創作活動への糧とする。				
履修上の注意点	・ 古典の多様な書美と技法を教科書で確認した上で、筆による反復練習を実践する。 ・ 理論を学び、それを踏まえた実技を行い、各項目の後に振り返りを行う。 ・ 用具用材類の取り扱いに注意。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	作品	○	○		
	提出物	○	○	○	
	小テスト	○	○		
	授業態度			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	漢字の書	漢字の書体とその特徴 篆書 「石鼓文」 隷書 「礼器碑」	3 3 5 3	漢字の書体と変遷をまなぶ。 篆書の特徴と用筆を学ぶ。 篆書による表現 「干支のお話」を合作する。 隷書の特徴と用筆を学ぶ。	1 1 2 3 3 1 2 3
		隷書 「張遷碑」 草書 「真草千字文」 草書 「書譜」	3 5 5	隷書の特徴と用筆を学ぶ。 草書の特徴と用筆を学ぶ。 草書の特徴と用筆を学ぶ。	1 2 3 1 2 3 1 2 3
2		行書 「集王聖教序」 行書 「蜀素帖」 楷書 「張猛龍碑」	3 5 3	行書の特徴と用筆を学ぶ。 行書の特徴と用筆を学ぶ。 楷書の特徴と用筆を学ぶ。	1 2 3 1 2 3 1 2 3
	漢字仮名交じり書 仮名の書	平仮名と変体仮名 連綿	7 3 3 3	来年のカレンダーを製作する。 仮名の成立と変遷を学ぶ。 古筆の臨書と観賞 仮名の筆づかいを学ぶ。	1 2 3 1 1 2 3
3	仮名の書	「高野切第一種」	4	仮名の書の行書きを学ぶ。	1 2 3
		「寸松庵色紙」	6	寸松庵色紙の構成から散らし書きを学ぶ。	1 2 3
	創作		6	仮名の書による創作	1 2 3

令和6年度 シラバス

教科名	芸術	科目名	美術Ⅱ	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	教科書 高校美術Ⅱ（日本文教出版）		
科目目標	・美術Ⅰで行った学習をより発展させ、平面・立体双方の表現方法を学習し、意図的・計画的に作品を制作できる能力を伸ばす。				
履修上の注意点	・制作が中心となります。 また、各制作の最後には作品の相互鑑賞を行います。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	授業態度			○	
	作品	○	○		
	鑑賞	○		○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	彫刻	「篆刻」 「彫刻」	8 9	・印面を自身でデザインし、制作する。 ・本体の彫刻を行い、立体表現の理解を深める。	①、②、③
	鑑賞 平面表現	「音と芸術」	9	・音楽と美術の関係性を学ぶ。 ・音楽を鑑賞し、そのイメージを平面に表現する。	①、②、③
2	素描	「風景」	1 3	・季節の変化を観察しながら、自然の美しさを発見する。 ・空間的な表現を、制作を通して学習する。	①、②、③
	彫塑	「カプセルトイのデザイン」	1 3	・企画・発案・制作を通して、コンセプトデザインの理解を深める	①、②、③
3	木彫	「小箱」	1 8	・木箱のデザイン・彫刻等の制作を通して、実用的なデザインを学習する。	①、②、③

令和6年度 シラバス

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅱ	履修学年	第2学年
単位数	2単位	使用教材	教科書：高校生の音楽②(教育芸術社) 副教材：高校生のための音楽研究ノート(教育芸術社)		
科目目標	・音楽の諸活動を通じて、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。				
履修上の注意点	・主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組むこと ・提出物は必ず期限内に提出すること				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	授業態度			○	
	鑑賞ノート			○	
	実技	○	○	○	
	楽典テスト	○	○		
	提出物			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1		<歌唱>からたちの花 <歌唱>Nel cor più non mi sento <楽典>調号・主音・調名 ♪	13	日本歌曲の表現を学ぶ イタリア語の発音、表現を学ぶ 読譜力をつける	①、② ①、② ①、③
		(器楽) ギター弾き語り: Stand by me <楽典>短音階 ♪ <鑑賞>オペラ『魔笛』	13	ストローク奏法を学ぶ 読譜力をつける 音楽の構成を理解し、作曲家の思いを学ぶ	①、②、 ①、③ ③
2		<器楽>三味線 <鑑賞>日本伝統音楽史 ♪ <楽典>移調、コードネーム ♪	13	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎を中心に学ぶ アレンジと創作力をつける	① ③ ③ ①、③
		<歌唱>Vaga luna, che inargenti 和楽器発表会 <鑑賞>幻想交響曲、春の祭典	13	イタリア語の発音、表現を学ぶ クループで選曲し、パートを決め、練習し、発表する 音楽の構成を理解し、作曲家の思いを学ぶ	①、② ① ②、③ ③
3		聴音テスト ♪ アンサンブル発表会★	18	リズム聴取 クループで選曲し、パートを決め、練習し、発表する	① ① ②、③